

[様式14]

(対象事業：1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：石川の歴史と文化再発見  
(前期) 教育普及事業

事業者名：財団法人七尾美術館

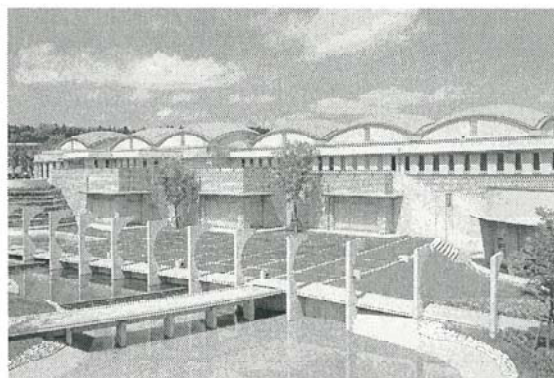
連携事業館名：石川県立歴史博物館

住所：石川県七尾市小丸山台1丁目1番地

TEL：0767-53-1500

FAX：0767-53-6262

HPアドレス：nanabi@city.nanao.ishikawa.jp



①施設概要

能登で初めての総合美術館として平成7年に開館。第一展示室（常設展示室）、第二展示室（企画展示室）、第三展示室（市民ギャラリー）の他、アートホール、長谷川等伯ハイビジョンコーナー、ティールームなどを完備。毎年恒例の「長谷川等伯展」「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」の他、様々なジャンルの展覧会を開催、市民を中心にアートホール、市民ギャラリーの貸館も行っている。

②事業の意図目的

地域の子どもたちを中心に、石川の歴史と文化を楽しく学び再発見し、より誇りと愛着を持つことを、また、県外の方にも石川の優れた歴史と文化に触れ、さらに深く知っていただくことを目的とする。

③事業概要

《石川の歴史と文化再発見》の前期展示として「武士の装い」と題し、石川県立歴史博物館所蔵の加賀藩ゆかりの史料を中心に、甲冑・刀剣といった武具類や、肖像画・合戦図を始めとした絵画や図鑑など、武将にまつわる絵画や工芸作品などを紹介する展覧会にあわせて実施する教育普及事業。

親子向けの体験講座や、甲冑の複製を着用できる武士体験子どもワークショップなどを開催。また、子ども解説書やクイズも作成し、学校とも連携して石川の歴史と文化を楽しく学べるようにサポートするものである。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物：子ども解説、クイズ、ワークショップチラシ、記念撮影パネル  
ワークショップ関連パネル

作成した報告書等：特になし

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 1,025人

内 訳（武士体験WS：386人、親子講座41人、ギャラリーーク28人、折り紙WS：約570人、子どもクイズ：891人）

※甲冑顔くり抜き撮影パネルは、人数カウント把握が難しく、カウントなし。また、上記人数はそれぞれ重なってカウントされているものもあります。

### (1) 事業の実施状況について

本事業は、石川県七尾美術館において平成19年度夏季～秋季に開催された特別展覧会「石川の歴史と文化再発見」の、前期開催「武士の装い ～石川県立歴史博物館所蔵の名品を中心に～」(会期：8月4日(土)～9月17日(月・祝))に関する教育普及事業である。

同展覧会は「石川の歴史と文化を再認識する」ことを目的として「歴史」「文化」でそれぞれにテーマを設定し、前期は歴史編として「武士の装い」、後期は文化編で「茶の湯の美術」として、前後期の会期で開催した。

この内「武士の装い」の内容としては、江戸時代に「加賀百万石」といわれて大きな力を有した、加賀藩にまつわる甲冑や刀剣などの武具や、合戦図や肖像画といった絵画や文書・図鑑などの様々な「武士」に関する作品や史料を、石川県立歴史博物館の所蔵作品を中心に、計43点を紹介した。

なお、同展示が夏休み期間中の8月を中心に開催されることから、子どもを対象としたイベントを充実させることとして、様々なワークショップを企画、実施した。

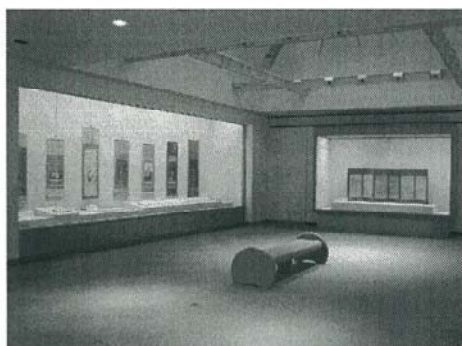
その内容は、親子を対象として武士に関する事柄を楽しく学ぶという講座や、複製甲冑を実際に着用して武士になりきるという体験、折り紙を用いて様々なカブトを折るという制作の3種である。

いずれも好評であったが、特に甲冑着用体験では実際に着用しないと分からないような甲冑の構造や重量、または着用した時の雰囲気などが直に体験できると大変に喜ばれ、学校の団体鑑賞時などは着用希望者が殺到した。また予定では子どものみ対象であったが、大人の着用希望者も多かった。

結果としては石川県内に現存する優れた作品、史料などを紹介したことによって、地元石川県民に対しては故郷が誇る歴史や文化を再確認させ、より地域に対して親しみを持ってもらい、一方で県外からの来館者に対しては「美術工芸王国」といわれる石川県の優れた文化の一端を知ってもらうことができたと思われる。



展示室風景①



展示室風景②



親子講座風景①(8/12)



甲冑着用体験コーナー



## (2) 地域との連携について

本展覧会開催にあたっては、作品や史料、展示に使用する備品や関連品などの借用や、展示指導や販売用グッズなど多岐にわたる協力・指導などの要請が必要であったことから、石川県立歴史博物館の共催事業とした（費用負担はなし）。

「武士の装い」に関しては、当館での甲冑や刀剣の展示が初めてであったこともあり、石川県内において最も同分野に精通している長谷川孝徳氏（北陸大学未来創造学部教授）に展示出品作品の選定や展示指導、親子講座の講師やギャラリートークなどを依頼した。

また、同じく「武士の装い」の折り紙で兜を作るワークショップでは、県内在住の折り紙講師田挟伸彦氏に折り紙の指導を受けた。

それから、「武士の装い」は9月の中旬まで開催されるため、学校からの来館を促す目的で、定期で行われる地元七尾地区小中学校の校長会・教頭会に参加し、展覧会の宣伝を行った。会期中は何校かの小中学校の来館があった。



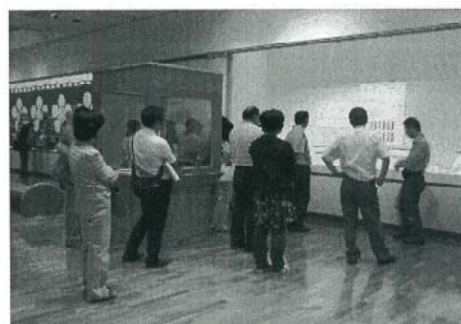
学校団体の鑑賞風景(9/6)

## (3) 成果物について

1. 展覧会子ども用解説（鑑賞の手引き）（A3サイズ）	4,000部
2. ワークショップチラシ（A4サイズ）	5,000部
3. 子ども対象クイズ	1,000部
4. 甲冑顔くり抜き撮影用パネル	1点
5. ワークショップスケジュールパネル	1枚
6. ワークショップ手引きパネル	2枚

## (4) 参加者の反応

来館者からは、「金沢ではなく、七尾でゆっくり見ることができてよかった」、「折り紙コーナーは子どもたちと楽しめてよかった」、「甲冑の複製を着ることができるなんて知らなかったの、本当に来てよかった」、子どもたちの中には「学校で来たけど、また着たいから友達同士で来た」などの声が聞かれた。



団体鑑賞風景(8/4)

### 《甲冑の複製を着用する「武士体験」》

会期中 16 日間のみの予定であったが、知らずに来館された方々からの要望もあり、後半は出来るだけ多くの方に体験して頂くため、ほとんど毎日対応した。最初は遠慮がちの方も、身に着けていくとすっかり楽しんで、その重さや作りに感心していた。体験された方は、皆さん本当に「いい経験が出来ました」と喜んでいました。



学校団体の着用体験風景(9/7)

### 《折り紙コーナー「だれでもカブト」》

予想以上の人気で、手軽で親しみのある折り紙とカブトということもあり、小さいお子様からご高齢の方まで参加していた。

4 種類のカブトの折り方手引きを見ながら、思い思いにデコレーションしてオリジナルのカブトを制作していた。中には一人で色んなカブトをいくつも作っている子、一番難しい大人向けのカブトをあっという間に完成させて周りを驚かせている子もいた。親が子どもに教えながら折っている姿も目立ち、微笑ましかった。



折り紙ワークショップ風景(9/5)

### 《子どもなんでもクイズ》

こちらも、来館されたほとんどの小中学生が参加していた。問題は三択式で、堅苦しくなく楽しみながら学べる内容とし、職場体験で来館していた市内中学生の意見も生かした。

鑑賞した子どもたちはクイズをすることで、より作品をじっくり観ていたと思われる。自分で丸付けをする最後の場所では、「やったー!全問正解や」という元気な声が多く聞かれた。



クイズ答え合わせコーナー

### 《親子体験講座》

一般聴講の方を含めて 41 名が参加した。

子どもたちは、甲冑の重さについての問いに元気よく手を挙げて答え、「学校の自由課題にする」という 6 年生の児童たちは、一生懸命メモをとっていた。また、「元のさやに納まる」「反りが合わない」「火蓋が切って落とされた」などの言葉が刀や火縄銃などが語源であるというお話には、お父さんやお母さんの方が大きく頷いていた。



親子講座風景②(8/12)

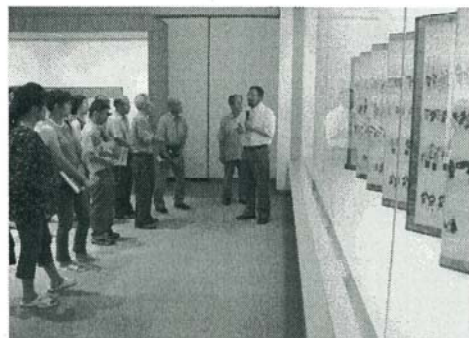


今回展示の小学校5・6年生の社会の教科書にも掲載されている「加賀藩大名行列図屏風」についての興味深いお話にも聞き入り、最後に、参加者を代表して2名が複製を着用した。

#### 《ギャラリートーク》

28人の方が参加したギャラリートークでは、前田家の肖像画や「加賀藩大名行列図屏風」、甲冑や刀、鎧などの出品作品について解説頂いた。

講師の先生が、甲冑のところでNHK大河ドラマ「利家とまつ」の登場人物と絡めてお話をされると、一斉に「あ〜!」という声が上がって、参加者から笑いが起こっていた。七尾在住の方からは「金沢といっても、見に行くとなるとなかなか難しい。七尾でゆっくり見ながらお話が聞けて、とてもよかった」というお言葉が聞かれた。



ギャラリートーク風景(8/19)

#### 《記念撮影コーナー》

今回、記念撮影コーナーを設置し、甲冑姿の武士の顔部に顔をはめて記念撮影できるパネルを作成した。

複製甲冑の着用が難しい小さな子どもや、複製を着用する時間がない来館者を中心に、子どもだけでなく一般の方も記念撮影する姿が目立った。



記念撮影コーナー

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回は本事業を実施したことにより、これまでは予算の都合でなかなか実施が難しかった来館者への積極的な教育普及事業が可能となり、来館者には大変好評であった。

来館者は展示をただ見るだけではなく、自身も体験することでより深く、また楽しく学ぶことができたと思われる。また、学校団体については地震などの影響などで時間の都合が着きづらかったこともあり、予定よりかなり少ないという結果になってしまったという点ではやや残念であったが、来館した小中学校生徒、特に6年生は、社会科授業の体験のようなかたちで、質問したりメモを取ったりと、楽しく学ぶことができたと考えられる。

(6) 新聞記事等  
《新聞記事》

**七尾美術館の事業など採択文化庁「タウン構想」**

文化庁は二日、歴史や文化、芸術など地域の文化資源を生かしたまちづくりを進める「ミュージアムタウン構想」事業を創設、五十一事業を採択した。石川県内からは、子どもを対象とした七尾美術館（七尾市）の「石川の歴史と文化再発見」事業が選ばれた。博物館や美術館などを地域活性化に活用。子どもの助成総額は一億八千万円。

美術品に触れる機会を増やしたり、施設を支援するボランティアの育成などを旨とする。各事業に対し、文化庁が運営経費の全額または一部を助成する。本年度の助成総額は一億八千万円。

北國新聞 平成 19 年 8 月 3 日 朝刊 34 面

文化庁の「タウン構想」事業

**七尾美術館など採択**

文化庁は二日、歴史や文化、芸術など地域の文化資源を生かしたまちづくりを進める「ミュージアムタウン構想」事業を

創設、七尾美術館（石川県七尾市）の「石川の歴史と文化再発見」など五十一事業を採択した。

博物館や美術館などを地域活性化に活用。子どもたちが本物の文化財や美術品に触れる機会を増やしたり、施設を支援するボランティアの育成などを旨とする。

七尾美術館の「石川の歴史と文化再発見」は、四日から同美術館で始まる「武士（ものゝふ）の装い」展の教育・普及事業として、子供たちが甲冑（かっちゅう）の複製を着用する武士体験コーナー、親子で武士の生活

などを学ぶ講座など多彩なイベントを展開する。各事業に対し文化庁が運営経費の全額または一部を助成する。本年度の助成総額は一億八千万円。

北陸中日新聞 平成 19 年 8 月 3 日 朝刊 30 面



石川の名品を展示  
 県七尾美術館で四日、特別展「石川の歴史と文化再発見」の前期展「武士(もののぶ)の装い」県立歴史博物館所蔵の名品を中心に、一が始まった。期間中、小学生以上を対象に複製の甲冑を体験するコーナーや長谷川孝徳北陸大教授の講演も行われる。九月十七日まで。

北國新聞 平成 19 年 8 月 5 日 朝刊 40 面



◇…複製とは  
 いえ甲冑は重さ  
 十キ以上で山口  
 事務局長らほう  
 だるような暑さ  
 の中、汗だくに  
 その物珍しい姿  
 を写真に撮る観  
 光客もあり、ア  
 ビール効果はあ  
 ったよう。

◇…七尾市  
 の県七尾美術  
 館で開かれて  
 いる企画展  
 「武士の装い」に合  
 せ、同館職員が十四日、  
 甲冑(よろい)＝写真＝を身に  
 着け、能登食祭市場で  
 買い物客つに来館を呼  
 び掛けた。  
 ◇…同美術館の山口  
 昇事務局長と実習中の  
 大学生二人が街頭に立  
 ち、九月十七日までの  
 会期中、実際に甲冑を  
 着られる日もあること  
 などをチラシを配って  
 PRした。

北國新聞 平成 19 年 8 月 15 日 朝刊 45 面

親子で武士体験講座 七尾  
 七尾市の県七尾美術館でこのほど、  
 「親子で楽しむ おもしろ武士の体験講  
 座」が県内の小学生以上の親子約三十人  
 が参加して行われ、甲冑(よろい)の複製を題材  
 に長谷川孝徳北陸大教授が講演した。  
 長谷川教授は武士が使用した甲冑の役  
 割や重さなどをわかりやすく解説し、参  
 加した子供が実際に装着する場面も見ら  
 れた。同講座は四日から同館で開催され  
 ている特別展「石川の歴史と文化再発  
 見」の前期展「武士の装い」石川県立歴  
 史博物館の名品を中心に、の一環とし  
 て行われた。

北國新聞 平成 19 年 8 月 16 日 朝刊 28 面

■石川の歴史と文化再発見（前期）「武士（もののふ）の装い」―県立歴史博物館所蔵の名品を中心に―  
 9月17日まで、前9―後5、七尾市小丸山台1、県七尾美術館。加賀藩ゆかりの甲冑（かっちゅう）、刀剣、鎧（あぶみ）や陣道具をはじめ、「大坂之陣図屏風（びょうぶ）＝部分」（江戸時代）重文「前田利春画像」（桃山時代、長齢寺所蔵）など武士たちの姿を伝える肖像画、合戦図、絵図類を併せて紹介。19日後1―同2、同館展示室でギャラリートーク「武士の装い」長谷川孝徳北陸大教授。一般500円（20人以上団体400円）高大生350円（同300円）中学生以下無料。ギャラリートークは観覧券必要。☎同館＝☎0767（53）1500

北陸中日新聞 平成 19 年 8 月 17 日 朝刊 13 面

## 武具に加賀藩士の心意気



機能性や芸術性があり、武士の心意気を感じさせる甲冑＝七尾市の県七尾美術館で

学芸専門員の的場久良さんは「権威の象徴だっ

つかがわかる。

よつに見え技術の高さを

ら骨やへそなどが彫ら

れ、遠くから見ると操の

甲冑で、金色の胴にあ

ニークなのは村井長頼の

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

### 県七尾美術館で歴史展

### 重文「利春」など絵画も

前田利家や長好連など加賀藩の当主や武将を描いた絵画と甲冑（かっちゅう）などの武具を展示する「武士（もののふ）の装い」展が、七尾市の県七尾美術館で開かれている。能登で初めての大型歴史展。九月十七日まで。（増井のぞみ）

県立歴史博物館の所蔵品を中心に、室町から昭和時代までの絵画や武具など四十三点を展示。前田家とその家臣で六水発祥の長家を一本柱にした展示内容。

絵画では、国指定重要無形文化財「前田利春画像」や七尾出身の画家長谷川等伯が軍神を描いた「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主などの甲冑七点を展示。ユニークなのは村井長頼の甲冑で、金色の胴にあ

ら骨やへそなどが彫られ、遠くから見ると操のよう

に見える技術の高さをつかがわかる。

学芸専門員の的場久良さんは「権威の象徴だっ

つかがわかる。

よつに見え技術の高さを

ら骨やへそなどが彫ら

れ、遠くから見ると操の

甲冑で、金色の胴にあ

ニークなのは村井長頼の

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

どの甲冑七点を展示。ユ

ニークなのは村井長頼の

「愛宕権現図」が必見。

武具では、長家の当主な

た絵画や武具を見て、武士の心意気を感じてもらえれば」と話している。問い合わせは同美術館＝電話0767（53）1500＝へ。

北陸中日新聞 平成 19 年 8 月 18 日 朝刊 18 面（80％に縮小）



《テレビ、関連誌等》

◆テレビ

1. 石川テレビ（フジテレビ系列）「スーパーニュース」

平成 19 年 8 月 6 日 18 : 25 ~ 18 : 28（約 3 分間放映）

◆関連誌など

1. 『月刊 Clubism』 8 月号「ART コーナー」

発行：金沢倶楽部 発行日：平成 19 年 7 月 20 日

2. 『金沢情報』 8 月 1 日号「エンタメポケット」

発行：KCC 発行日：平成 19 年 8 月 1 日

3. 『七尾市広報』 8 月号「イベントコーナー」

発行：石川県七尾市 発行日：平成 19 年 8 月 5 日

4. 『七尾市広報』 9 月号「イベントコーナー」

発行：石川県七尾市 発行日：平成 19 年 9 月 5 日

5. 『こみみかわら版』 9 月 9 日号「りえのオススメ地元名所スポット」

発行：こみみ情報局 発行日：平成 19 年 9 月 9 日